

# 対馬市 トピック



ひとつばたごと鱈浦地区 中央のテント付近がメイン会場

大型連休の最終日となった5月7日、上対馬町鱈浦地区で恒例のひとつばたご祭りが開催されました。

当日の天候は曇りで、5月としては肌寒い一日となりましたが、それでも名物のひとつばたごを見ようと、朝から約2,300名の観光客が詰めかけ、入江を囲む山の斜面に咲いた白い花を楽しんでいました。

集落の中央部に設けられた祭りのメイン会場では、特産品コーナーなどの出店が設けられ、黒煮ひじきや素干しわかめ、ウニなどの地元のかめ、幸や、ひとつばたごの苗木が

販売され人気を集めていました。

ステージでは、対馬愛鼓連による演奏、寿川会による踊り、グリーンキッズによるダンス、上対馬高校ブラスバンド部による演奏が披露され、祭りを盛り上げました。

平成元年より続けられているこのイベントも今回で18回目。当初、鱈浦地区で運営されてきたこのお祭りも、過疎化・高齢化などの理由から、今回より対馬観光物産協会上対馬支部、対馬市商工会上対馬支部、対馬市らによる実行委員会での運営となりました。同委員会の牛島省三委員長

(78歳)は「今年は花の咲き具合が昨年に比べて6割程度であったのと、天候に恵まれなかったことが残念だったが、それでも多くの観光客に来てもらえて良かった。今後も祭りひとつばたごを積極的にPRして、対馬の活性化につなげたい」と話していました。



会場内の出店も多くのお客さんで賑わっていました。



ひとつばたごの苗木を販売する鱈浦区購買部



かわいらしいダンスを披露したグリーンキッズ



【沖合からひとつばたごを楽しむ 遊覧航海もありません】



遊覧船に乗り込む乗客(上)、沖合の海栗島へ上陸し、鱈浦地区を望む(下)